
当社が開発中の着座式移動装置「EPS」が日刊工業新聞に掲載されました。

大同工業株式会社（本社：石川県加賀市）が開発を進めている着座式移動装置「EPS」が、2026年7月1日発行の日刊工業新聞に掲載されました。



EPS は、障がいのある方や高齢の方が座ったまま安全に移動しながら作業できる装置で、当社が長年培ってきたす式階段昇降機の技術が活かされています。

2026年7月1日より、障がい者の法定雇用率が引き上げられる中、企業には多様な人材が活躍できる環境整備がこれまで以上に求められています。EPS は、足腰の不自由な方が、移動の制約により単一の作業に限られる現場において、複数工程への参加を可能にし、働く機会と役割の拡大に貢献します。これにより、「働く喜び」や「働ける可能性」の拡大を目指しています。

なお、本製品は2027年1月の発売を予定しており、価格はレール長約8mの場合で約60万円（税別）を想定しています。

※掲載記事の詳細につきましては、添付 PDF の2枚目をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

大同工業株式会社 事業推進本部 営業課

お問合せフォーム：<https://www.did-daido.co.jp/contact/form.html>

電話：0761-72-1234(代)

座ったまま作業・移動

大同工業 障がい者向け装置



【金沢】大同工業（石川県加賀市、新築啓生社長）は、足が不自由な人や高齢者が座ったまま作業や移動ができる着座式移動装置「EPS」を開発した。床に敷いたレール上を横に移動することで、移動の制約により一つの作業しかできなかった人が複数の作業をこなせる。製造業など障がい者雇用の拡大を目指す企業に提案する。価格はレール長8mで約60万円（消費税別）を想定。2027年1月に発売予定。年200台の販売を見込む。

EPSは自社の福祉用品の共通化でコスト削減して使用できる。機器「いす式階段昇降機」を抑えた。座席には体重100kgの人まで大人2人で運べるようにした。大小の直線と曲線のレールを組み合わせて固定する。レール長8m程度だと1時間程度で設置できるという。

設計時に環境負荷の低減に配慮した。アルミ材はリサイクルが可能。ゴム部品のリサイクルも提供している。座席に座ったまま移動できるため、足の不自由な人でも複数の作業をこなせる。

クル率は30%に達している。安全性に配慮し最高速度を時速0.72mに抑えた。安全性の高い国産のリン酸鉄リチウムイオン電池（LFP）を利用。座席は障害物と接触した時の抵抗で停止する。事業推進本部副部長の後藤和彦執行役員は「障がいのある人がもっと楽しく働ける環境を提供できるのではないかと考えて開発した」と語った。

大同工業は1日付で国が企業の障がい者法定雇用率を従来の2.5%から2.7%に引き上げるのを受け、中小企業でも導入しやすい価格でEPSを提供することで、障がい者や高齢者の雇用拡大を後押しする。